

# 瑞浪市の保育園・幼稚園における現状・課題と取組

## 1 検討の背景

- 子どもたちに、豊かな育ちと学びを保障し、子育てを支援する場としての幼稚園・保育園(園)の果たしてきた役割の大きさ
- 培われてきた幼児教育と保育の成果を、今後も提供、充実していくことが必要
- 就労環境の変化等を受けて、保護者の就労の有無に関わらない幼児教育、保育の提供の必要性
- 双方の役割を担う形で、全ての子どもに質の高い幼児教育と保育を提供するための幼保の体制を検討していく必要性
- 国による新たな子ども・子育て支援制度(子ども・子育て関連3法)

## 国の新たな方向性(待機児童解消加速化プラン)

- ①賃貸方式や国有地も活用した保育園整備
  - ・小規模保育設置促進
  - ・地主と整備事業者のマッチング
- ②保育の量拡大を支える保育士確保
  - ・潜在保育士の復帰促進
  - ・無資格者の保育士資格取得支援
- ③小規模保育事業など新制度の先取り
  - ・小規模保育の支援、幼稚園での長時間預かり保育など、即効性のある受け皿確保
  - ・保護者と適切な施設・事業の結び付け
- ④認可を目指す認可外保育施設への支援
  - ・認可保育園への移行支援
- ⑤事業所内保育施設への支援
  - ・助成要件の緩和

## 2 就学前児童を取り巻く環境

- 【人口】
- 就学前児童が減少しているなか、今後も引き続き減少していくことが予測される
- 【世帯】
- 核家族化の進展により、家庭での子育て負担の増加や子どもの交流機会が減少している
- 【就業】
- 共働き世帯の増加や多様な就労形態が進む中で、保育ニーズが増加・多様化している

## 3 認可保育園・幼稚園における現状と課題

- 稲津幼児園、桔梗幼児園、竜吟幼児園、日吉幼児園など入園率が90%を超えている園がある一方で、入園率50%前後の園もあり、地域によって入園状況に差がある(統計書:平成24年4月1日現在)
- 年度によって園児数の増減が多少あるため、柔軟な受け入れ体制の確保が必要
- 保護者の就労の有無に関わらず、幼児教育・保育を提供する機能や、すべての子育て家庭を対象に、子育て支援を行う機能が必要

## 5 瑞浪市が喫緊に取り組むべき課題・方向性

- 幼稚園における保育・教育内容の質の向上
- 園児数減少傾向地区における空き施設の有効活用
- 未就園児の一時預かりの導入の検討

## 4 検討委員会での意見

- 保護者の保育ニーズに応えるためには、保育士の確保が問題
- 保育時間の増加による子どものさみしさという現状がある。それを保護者に伝えながら支援していくことが「親育て」につながるのではないかと
- 子どもだけでなく、保護者が親の役割を果たせるような支援をするべき
- 育児休暇を取得している比較的余裕のある時期に、中学校くらいまでを見据えた教育等に関する講演会を開催したらよいと思う

## 6 平成27年度の新制度スタートに向けて瑞浪市が取り組むべき課題・方向性

- 真のニーズを捉えた圏域(小学校区・中学校区)による就学前施設(幼稚園・保育園・幼稚園)の適正な量・配置
- 多様な働き方に対応した教育保育の量・質の確保(保育園での一時預かり、幼稚園での預かり保育の推進など)
- 地域での子育て支援の充実